C－60 庶民衣服の研究（6）仕事着の名称と構成の一考察

実践女子短大　田中陽子

1、従来の小袖形式の農山漁村の労働着は、着用人口と使用度から日本衣服の重要な存在であったが、急速な洋式化に完全消滅も間近く、年ごとに有形、無形の正確な資料を得ることが困難になった。仕事着は各地方名称を有し、その中には衣服の機能特性を表現したものが多い。今回はその地方名の採録とあわせて形態と構成の地方差を考察する。

2、地方調査。個人、博物館、郷土資料館、民芸館等蔵の実物調査及び聞きとり調査。民俗誌、関係文献等を資料とする。

3、仕事着は各地方の生活事情と労働に密着した構成を自ら工夫し、その名称には衣服の特徴を名づけたものが目立ち、形態や用途、作業場所、又は材料や構成などに関係している。　上衣名称のみをみても方言や転訛、複合語など約600種にちかく、地方により同形、異称のもの又その反対もあり、名称と実物の関係地方差はまことに複雑である。